



大阪科学・大学記者クラブ 御中
(同時資料提供先：大阪市政記者クラブ)

2014年10月29日
公立大学法人大阪市立大学 大学広報室
Email : t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学と大阪市都市整備局が 住まい・まちづくりに関する連携協定を締結しました

大阪市立大学は、平成26年10月28日(火)に大阪市都市整備局と「住まい・まちづくりに関する連携協定」を締結しました。この連携協定は、大阪市の再生・活性化に資する住まい・まちづくりにおける取り組みの推進と、大阪市立大学の教育・学術研究機能の向上を目的としています。

また、本連携協定に基づく取り組みとして、平成26年10月30日(木)から開催される「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2014」において、大学特別連携企画プログラムが展開されます。

●主な連携事項

- (1) 安全で安心して暮らせる住まい・まちづくりに関すること
- (2) 都市魅力と活気のある住まい・まちづくりに関すること
- (3) コミュニティ豊かな住み続けられる住まい・まちづくりに関すること
- (4) 教育及び人材の育成に関すること
- (5) 学術的研究に関すること
- (6) その他両者が必要と認める事項に関すること

※参考資料：連携協定書

●「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2014」

「生きた建築」とは、歴史と文化、そして市民の暮らしを支えつつ、時代に合わせて様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築のこと。「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」は、そんな「生きた建築」を通して、いつもとは一味違った大阪を感じていただくイベントです。普段はめったに入ることのできない建物の内部公開を中心に、ツアーや展示、トークセミナーなど、様々なプログラムを実施します。

【大学特別連携企画】

- ・大阪市立大学キャンパスツアー～1号館から旧図書館書庫まで～
- ・フォーラム：「提案と対話：生きた建築に触れるーイケフェス大阪ー」

「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2014」の詳細については、下記URLをご参照ください。

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000281475.html>

【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学 地域連携センター (学務企画課 地域貢献担当：澤田)

TEL : 06-6605-3504 FAX : 06-6605-3505

大阪市都市整備局と公立大学法人大阪市立大学との 住まい・まちづくりに関する連携協定書

大阪市都市整備局と公立大学法人大阪市立大学は、大阪市の再生・活性化に資するよう、大阪市の住まい・まちづくりにおける相互の連携及び協力に関する事項について、以下のとおり協定する。

(目的)

第1条 この協定は、大阪市都市整備局（以下「甲」という。）と公立大学法人大阪市立大学（以下「乙」という。）が連携し、大阪市の住まい・まちづくりにおける取り組みの推進と、大阪市立大学の教育・学術研究機能の向上を目的とする。

(連携事項)

第2条 本協定による主な連携事項は次のとおりとする。ただし、下記の活動において必要な事項については、甲と乙の協議の上、別途定めることとする。

- (1) 安全で安心して暮らせる住まい・まちづくりに関すること
- (2) 都市魅力と活気のある住まい・まちづくりに関すること
- (3) コミュニティ豊かな住み続けられる住まい・まちづくりに関すること
- (4) 教育及び人材の育成に関すること
- (5) 学術的研究に関すること
- (6) その他両者が必要と認める事項に関すること

(連絡調整)

第3条 前条各号に定める項目を円滑かつ効果的に進めるために、両者に連絡調整窓口を設ける。

(機密保持義務)

第4条 甲及び乙は、第2条に定める活動により知り得た機密情報及び個人情報については、それぞれ機密として保持する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

(協定期間)

第5条 本協定期間は、1年間とする。ただし、期間満了の日の3か月前までに、甲又は乙のいずれからでも協定の終了又は見直し等の申し出がない限り、本協定は1年間更新され、以後も同様の取り扱いとする。

(内容の変更)

第6条 甲及び乙は、相方協議の上、本協定の内容を変更できるものとする。

(その他)

第7条 本協定に規定のない事項及び本協定の条項に関して疑義が生じたときは、甲及び乙が協議の上、別途定めることとする。

本協定の証として、本書を2通作成し、署名捺印の上、双方1通を保有する。

平成26年10月28日

甲：大阪市都市整備局
局長 國松 弘一

乙：公立大学法人大阪市立大学
理事長 西澤 良記



photo Kiyoshi NISHIOKA

生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪 2014

フォーラム 提案と対話：生きた建築に触れる -イケフェス大阪- 大阪市立大学 × 立命館大学 × 大阪工業大学

「生きた建築」。この新しい価値の提示は、都市・建築と社会との接点を再構築する試みでもあります。都市にとって建築とはなんなのか？生きた建築を通じて見える都市の未来像とは？そして社会とインタラクティブに通じた都市・建築の展望と、プラットフォームのあり方、求める人材像とは？「生きた建築ミュージアム」がもつ可能性とはなにか？そんな思いを胸に、関西3大学の都市・建築研究者が「生きた建築」と社会をつなぐ提案を行い、対話します。

日時： **2014年11月1日(土)**
16:00 開場、16:30 開演、18:30 終了予定
会場： **御堂ビル** (竹中工務店大阪本店)
1階 いちようホール
大阪市中央区本町 4-1-13 (地下鉄本町駅 5 番出口)

参加無料 (当日先着順受付、定員 100 名)
主催： 大阪市立大学 (文部科学省「地(知)の拠点」整備事業)
協力： 竹中工務店、大阪市

同時開催：御堂ビル (1965) 特別公開



1階ホール特別開放 (入場無料)
日時： 11月1日(土) 10:00-18:30
11月2日(日) 10:00-16:00
展示： 建設記録映画上映 (10:00-16:00)、
竹中工務店パネル展示・模型展示など

館内特別見学ツアー (参加無料)
日時： 11月1日(土)、2日(日)
各日とも①10:30 ②15:00 (各回約 30分)
定員： 各 20名 (当日先着順)
開始時間 10分前より御堂ビル1階ホールにて先着順に受付

第1部：プレゼンテーション (提案) 16:30

倉方 俊輔 / 大阪市立大学工学部建築学科准教授

1. 子どもが遊ぶ建築

建築は子どもにどのように表現されるのか？大人と違う目線で写真を撮る。針金を曲げて建築を表す。遊びは子どもが建築を手中に収める作業であると同時に、大人が見えていなかったものを教えてくれるでしょう。

2. つくろう！建築スーベニール

スーベニール (souvenir) は、旅行で買うお土産のこと。フランス語の「思い出す」という動詞が語源です。もっと魅力的な建築土産があっても良いはず。案を募集し、デザインの手で建築の思い出方を拡大します。

3. 「建字」コンテスト

一つの建築の特徴を捉えて一文字で表現する。創作建築漢字のコンテストを一般向けに行なうことを提案します。初回は「象形」編。最も古い東洋の文字と、西洋の Architecture が出会うことで「建築アイコン」が生まれます。

嘉名 光市 / 大阪市立大学工学部都市学科准教授

4. 建築定点観測 写真からみる生きた建築のいま・むかし

生きた建築は昔も今も生きています。しかしその建築の生き様は時代や都市における時間の経過とともに変わってゆく。建築定点観測では、その変容を「むかし」、「いま」の写真から対比的に読み解くことを試みます。

前田 茂樹 / 大阪工業大学工学部建築学科准教授

5. まちびらきをつくろう

大学生の目線で、一年に一度だけでも入ってみたい建築を選ぶワークショップを一年間継続し、実際に企画書をつくり交渉していく。大学生がまちびらきをつくっていきます。

堀口 徹 / 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科准教授

6. 街並みをつくるビルスタンプ

ビルの意匠のエッセンスをプロの眼で抽出し、3Dプリンターなどで縮尺模型型スタンプとして制作。地図や街並み立面図のような台紙も用意することで建築ツアーにつきものの(?)スタンプラリーが街並みをつくる行為と重なります。

7. ものがたり、ビルがたり、ビルめぐり

あるビルで暮らし、はたらく人々。あるいはそこを日々訪れ、眺める人々。彼らへのインタビューを映像化し、あちこちのビルで同時多発的に上映します。ビルを語る言葉を通して「生きたビル」の出来事や記憶をアーカイブしていく。

第2部：ディスカッション 17:30

嘉名 光市 (進行) × 倉方 俊輔 × 前田 茂樹 × 堀口 徹